

Check

今月の栽培ポイント

12月

## 宮農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231  
 尾道北営農センター ☎0848-29-9611  
 向島営農センター ☎0848-44-2106  
 因島営農センター ☎0845-25-6161  
 世羅営農センター ☎0847-25-5029

浦崎支店 ☎0848-73-3311  
 御調支店 ☎0848-76-2242  
 甲山支店 ☎0847-25-5035  
 世羅西支店 ☎0847-37-7100

## 水稲

広島県の令和7年産の作況単収指数は「105」(9月25日時点)と見込まれました。令和7年は、統計開始以降もっとも早い梅雨明けとなりました。

そのため、初期のいもち病である葉いもちによる大きな被害は確認されませんでした。また、出穂期前後の高温により穂への転移も少なく、病害の発生が最小限に抑えられました。

田植え後の生育は、気温が高めに推移したことから順調でしたが、6月下旬か

ら7月下旬にかけて高温・多照で推移したこと等により、穂数は前年並み、粳数はやや多くなりました。

早生品種、中生品種ともに高温に起因する乳白粒、充実不足や発芽粒が見られました。一部地域では、干ばつの影響でもみの黒変や空粳が見られ、品質はやや不良となりました。

南部では、8月中旬からの高温と多雨による多湿の影響で、紋枯れ病が進展・拡大した圃場が見られました。今年発生した圃場では、土壌に落下した菌核が土壌中で越冬し伝染源となるため、次年産は特に注意して防除を行ってください。

イネカメムシについては、防除が徹底された圃場においては被害が少なく、個体数が減少していると考えられますが、次年産においても注意が必要です

## 【作況単収指数とは】

新指標の作況単収指数は、直近5年間から豊凶年を除いた3年間のデータを基準とし、従来の「収穫量全体」を示すものではなく、単位面積あたりの収量を比較して算出されております。

みなさん個人の成績は、昨年と今年の出来高や等級から分析し、次年産に向けた計画を立てていきましょう。

12月下旬から1月中旬にかけて各地区で稲作暦の説明会の開催を予定しております。今年の病害虫発生状況や、来年に

向けた栽培管理に関する情報発信を行う予定としておりますのでご参加ください。なお、開催日程等につきましては、最寄りの支店・営農センターまでお問い合わせください。

## 【今後の管理について】

収穫が終わった圃場の管理は、来年の作付けを左右する重要なポイントです。

11月号でもお伝えしておりますが、「ガス湧き」による初期生育抑制を防ぐため、秋起こしを実施しましょう。

土中で有機物が微生物によって分解される時に酸素が少なくなると発生する「メタンガス」がガス湧きの主な原因です。

メタンガスは地球温暖化の原因の一つである温室効果ガスとしても知られ、田植え後の圃場で発生すると初期生育(活着や分げつ)が抑制され、減収に繋がります。

秋起こしを実施していない圃場は、今からでも遅くはありません。早急にトラクターで耕運作業を実施してください。

★1年間かけて、丹精こめて作ったお米

です。一番おいしく食べるために、知っておきたいポイントをご紹介します。

## 【お米のおいしさの決め手】

「おいしい」という感覚は人それぞれ違います。一般には光沢と粘りがあって、冷えても硬くならず、甘みと香りがある

「ご飯がおいしい」と表現されますが、全員に当てはまるわけではありません。

タンパク質とでんぶんの含有量を分析することで、ある程度の食味の判断が可能となります。

タンパク質は、炊飯時にでんぶんの膨潤を抑えてしまったため、含量が高いと炊き上がりのふくらみが低く、「おいしくない」と判断されてしまいます。

でんぶんは、主にアミロースとアミロペクチンという2種類の成分で構成され、粘りと硬さのバランスを司ります。

アミロース含量が低いほど粘りが強く、高いほど硬めの食感となります。ちなみに、もち米のでんぶんは、すべてアミロペクチンで構成され、アミロースは含まれていません。

日本人は粘りの強いお米、いわゆるアミロース含量の低いお米を好む傾向があり、コシヒカリ(約16%)が人気となる理由の一つです。

## 柑橘

着色後に雨が多いとしらぬひ、はるみ、清見などは果皮障害の発生が心配されます。適期収穫を心掛けましょう。

## 【防寒対策】

3重袋の保温性が1番高く、プラス

1・3℃の効果があります。設置の際は、袋の口から雨水が入らないよう口をしっ  
かり締めましょう。

近年、カラスが3重袋を覚え、袋をか  
けるとカラスが飛来するようになってき  
ています。樹上部にテグスを1m間隔で  
設置し、被害を防止しましょう。また、  
飛来する方向が分かっている場合、横に  
もテグスを設置すると効果的です。

サニーマンを利用する場合は、スレ  
傷防止のため外成り果実にサニマをかぶ  
せます。

寒い園地のレモンは12月に果実を全量  
収穫し、樹体をサニーマンやパスライ  
トで覆いましょう。苗木も同様に防寒を  
行いましょう。

### 【中晩柑類の収穫・貯蔵のポイント】

棚貯蔵の場合は、果実2〜3個重ねま  
でとします。コンテナ貯蔵の場合は七分  
入れまでとし、通気性を高めるため底に  
たる木を敷き、コンテナの間隔は10〜15  
cm程度開けます。

適正入庫量は、一坪当たり800〜  
1,000kgとします。

貯蔵中は1日1回を基本に、外気温が  
貯蔵適温に近い時間帯に換気を行います。  
また、貯蔵庫が乾燥する場合は、打ち  
水や濡れムシロを敷き湿度を保ちます。

### ◆八朔

暖かい園地では、1月中旬頃までに採

収します。採取後は、コハン症の発生を  
防ぐため湿度保持に努め貯蔵します。青  
い果実は、有孔ポリ包装などで湿度を取  
ると着色が進みやすくなります。



▲八朔のヤケは乾燥や高温  
(15℃以上)で多発する

### ◆はるみ

はるみは完全着色後、雨に遭遇すると果  
皮障害が発生しやすくなります。まだ収  
穫していない園地は収穫を急ぎましょう。

はるみは供腐れしやすい品種です。腐  
敗果点検をこまめに行うことが必要で  
す。青い果実は新聞紙で覆うと色が進み  
ます。

### ◆しらぬひの採取

採取は、通常1月中旬頃から行いま  
す。が、ヘタ周辺のひび割れやヘタ黒果の発  
生が見られる園地では、採取を早めま  
しょう。防寒対策を徹底し、味をのせて  
収穫しましょう。採取時のハサミ傷が貯  
蔵中の腐りの主要因となっています。ハ  
サミ傷のつきにくいデコチョンなどを  
用いましょう。

また、採取時に果実に衝撃を与えると

貯蔵中に油胞の黒変が多発します。収穫  
カゴからコンテナへ移す際は手移しま  
しょう。

各産地で糖度酸度による出荷時期の指  
示があると思われます。高接樹で毎年酸  
度が2%を超える園地は苗木への改植を  
考えてください。



▲しらぬひのヘタ黒果

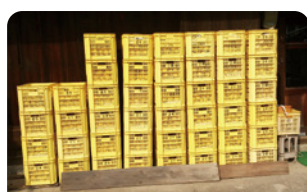


▲デコチョン  
デコボン専用と思われるが  
ちですが、みかんなどの収穫も大  
変しやすい  
是非、一度使用してみてください。

### ◆はるか

採取は1月下旬からが基本ですが、寒  
波被害の恐れがある場合は採取を早めて  
ください。

収穫後は2℃以上とし以下に仕分け、  
軒下の温暖で通気の良い場所で7%程度  
の予措を実施してください。予措が不十



▲予措：軒下など、通気性の良  
い場所で水分をとばし減量する  
作業。  
果実に直射日光が当たらないよ  
うにする。

分だと出荷時にス上がり(粒化症)が発生  
し商品性が無くなります。予措終了後は、  
新聞紙囲いまたはもぎたてパックを使用  
し常温貯蔵してください。

### ◆レモン

レモンは、果実が多くなっている状態  
で低温を受けると樹が枯死することがあ  
ります。寒い園地では、欲張らずに年内  
で収穫が終了するようにしましょう。

収穫後、出荷まで期間が長い場合は、  
有孔ポリを利用し貯蔵しましょう。



▲パスライトを利用したレモ  
ン苗木の防寒

### 【病害虫防除】

#### ◆カイガラムシ・ハダニ防除

収穫後に95%マシン油と尿素を混用し  
散布しましょう。マシン油は、カイガラ  
ムシを油で被膜し窒息死させる薬剤で  
す。散布ムラがないよう丁寧に散布しま  
しょう。樹勢が衰弱している園地では、  
落葉が心配されるので散布しないくだ  
さい。

また、1月中旬までに95%マシン油を  
散布出来ない園地や枝が込み合っている



園地では、3月の剪定後にアプロードフロアブル1,000倍とハーベストオイル80倍を混用散布しましょう。



▲ヤノネカイガラムシ



▲サンホーゼカイガラムシ

#### ◆収穫後の尿素散布

ミカンを連年結果させるためには、尿素散布は不可欠な作業です。収穫終了後、尿素の葉面散布を実施しましょう。気温8℃以下になると吸収が悪くなりますので暖かい日に散布しましょう。マシン油散布時にも混用しましょう。

#### ◆苗木の着花抑制

苗木にジベレリンを散布することにより、着花を抑制し早期樹幹拡大を図ることが出来ます。

ジベレリンを25～50ppmで年内に散布しましょう。

## 落葉果樹

### 【園内清掃】

落ち葉や落果は、病害虫の越冬場所に

なり、翌年の発生源となります。園外に持ち出し処分しましょう。

今年は11月に入っても暖かい日が続いていましたので、早めの剪定開始は樹を傷める恐れがあります。落葉時期・樹液が止まったタイミングを見極め、剪定を開始してください。

#### 【整枝剪定】

剪定時期は、葉が完全に落葉してから実施してください。

主枝と亜主枝をしっかりと認識して、樹勢のバランスを見ながら剪定を行ってください。

#### 【休眠期防除】

休眠期の防除の有無によって、病害虫の発生量が大きく違います。

生育期の発生量を抑え、防除回数を減らすためにも必ず行つてほしいです。

近年、特にカイガラムシ類の発生が多いようです。一度寄生してしまうと防除が困難になります。防除前に、粗皮剥ぎやブラシ掛け等でカイガラムシの駆除を徹底しましょう。

◎発芽（開花）前に防除してください。倍数は、品目ごと農薬の登録内容を確認して散布しましょう。

#### ◆注意点

展着剤を入れ、ムラ無く樹を洗うように丁寧に散布してください。

散布は風のない日を選び、飛散防止ノズル等を使用するなど、飛散しないように注意しましょう。

特に園地周辺に住宅などがある場合には、散布日をお知らせするなどの配慮が必要です。

## ぶどう

#### 【ハウス栽培】

被覆から加温開始までの期間が短いと、地温が十分に上がらず、根からの吸水が不十分となり発芽の不揃いや、新梢の初期生育不良が起こりやすくなるため、20日間は取りましょう。

また、被覆から萌芽までの期間は多くの水分を必要とします。被覆直後にたっぷ（30～40mm）灌水を行ってください。

その後も定期的に20mm程度の灌水を行い、ハウス内の湿度を保つようにしてください。また、結果母枝の乾燥防止のために一日一回は枝散水を行ってください。

※12月～1月中旬加温のデラウェアの施設栽培では、加温開始10日後を目途に揚水を確認して休眠打破（C×10処理）を行なうと、発芽の揃いが良くなります。

※デラウェアの加温栽培では、各作型の作業が重ならないよう、栽培計画を立て、計画的に作業を行います。

## いちじく

#### 【剪定の時期】

剪定は樹液流動の少ない1月から2月の間に行います。しかし、切り口から樹液が出るような気象状況の時は、樹液流動が少なくなってから剪定を開始しましょう。

樹勢の強い樹では間引き剪定を、樹勢の弱い樹では切り返し剪定を主体に行いましょう。さらに、誘引等で整枝を行い、作業効率の良い樹づくりに努めましょう。

#### ◆密植園の間伐

密植園では、収穫や防除などの作業性が悪く、果実品質においては、日照不足の影響により着色不良果や病害虫被害果が多くなりますので、間伐を行います。混んでいるからといって剪定で樹を切りつめると、強剪定となり強樹勢になってしまつてご注意ください。

## もも

#### 【整枝・剪定】

樹形にとらわれすぎず、樹勢に応じて加減することが大切です。

生育中、樹冠内部まで日照が確保できるようにします。

#### ◆注意する害虫

コスカシバの補殺

## なし

植栽間隔が狭い園では必ず間伐を行い、園内に日光が差し込めるようにしましょう。

混み合ったままでは樹勢の低下だけでなく収量の低下や、病害虫が多発しやすくなるなどの影響があります。

### 【剪定】

主枝と亜主枝をしっかりと認識して、樹勢のバランスを見ながら、剪定を行ってください。

### ◆灌水

なしの根は冬の間も養水分を吸収し、腋芽の花を作っています。乾燥しないように12月中は10日に1回10mm程度の灌水を行ってください。

## 家庭菜園

今年も残りわずかとなりました。収穫の終わった畑は手入れをして、来年の作付けに備えましょう。

### 【12月の主な作業】

- ・畑の片付け
- ・農具の手入れ
- ・土づくり
- ・栽培中の野菜の管理

### 【畑の片付け】

収穫後の残渣や資材を畑の外に持ち出します。そのまま畑に放置すると病気や害虫の温床となってしまうので、今年被害を受けた畑は特に念入りに片付けましょう。

支柱などの資材は、この時期に回収して清掃すると長持ちします。また、資材の状態を確認することで、来年準備する資材の目星を付けることが出来ます。

### 【農具の手入れ】

スキやジョレン等の農具は、使用後に土を落とさないとすぐに錆びてしまいます。また、使用するうちに、剪定バサミは刃が摩耗し、クワなどは角度が変わります。効率的な作業を行うためにも、この時期に手入れをしましょう。

### 【土づくり】

植物が健康に生きるためには、土が健康でなければいけません。定期的に堆肥や土壌改良資材を投入して、土の状態を調整しましょう。

### ◆堆肥の役割

①土の物理性を改善します。畑がふかふかになり、根張りが良くなります。また保水性・排水性ともに向上します。肥持ちも良くなります。

②病害虫に強くなります。堆肥の投入により微生物の種類が増えることでお互いが影響し合い、異常繁殖を防ぐことが出来ます。

③様々な微量要素が供給できます。

### ◆石灰資材の役割

①土壌酸度、pHを調整します。土は基本的に酸性の性質をもっており、野菜にとつて好適な、弱酸性〜中性に調整するためには石灰質が必要です。雨などによっても土壌酸度は酸性に傾いていくので、作付けごとに石灰資材を投入しましょう。

### ◆雑草の防除

冬の間は雑草の生育も鈍くなります。今の間に処理を行っておくと春以降の作業が楽になります。種が落ちる前に畑の雑草を抜き取りましょう。

草があまりに多い場合は、除草剤の使用も考えられます。堆肥や石灰を入れ、耕耘する前に早めに散布しましょう。

雑草はどうしても生えてきますが、小さいうちに抜き取ることで徐々に密度を減らすことが出来ます。大変ですが、小まめな作業を心がけましょう。

### 【結球野菜について】

結球野菜には、キャベツ、ハクサイなどがあります。

綺麗な作物を収穫するためにはいくつポイントがあります。

### ◆寒くなったのに結球しない

結球を行うためにはある程度の大きさに生育し、外葉の枚数を確保する必要があります。

あります。品種にあった時期に定植を行うことが大切です。また定植後に乾燥が続くと生育が遅れるので、雨が降らないようなら灌水を行う必要があります。

### ◆葉の縁が茶色く枯れる

病気などが原因の場合もありますが、カルシウムやホウ素が不足しても起こります。施肥設計の見直しや乾燥を防止しましょう。



### 【タマネギの管理】

### ◆追肥

12月下旬以降に追肥を行います。1㎡当たり化成肥料を二握り程度施しましょう。

### ◆病気の予防

タマネギの代表的な病気としてべト病が挙げられます。秋から冬にかけて感染し、暖かくなった春に大発生することがあります。

発病すると枯死したり生育が著しく劣ります。

感染株は袋に入れて圃場外に持ち出し、農薬による防除を実施しましょう。